

予防鍼灸研究会（SGPAM）

第 12 回定例会抄録

テーマ：灸の魅力と可能性

2023 年 1 月 29 日

目次

しあわせの灸	越石 まつ江	2
臨床で活かせる井穴（せいけつ）のお灸	一ノ瀬 宏	3

しあわせの灸 —気持ちよい刺激で最大の効果を—

越石鍼灸院 院長 越石 まつ江

「抄録」 越石鍼灸院では、“気持ちよい”“痕に残らない”灸に特化した治療を行っています。紫雲膏に代わり自社開発の「おQバーム」を使用して2種類の灸法（以下、多壮灸と糸状灸）を用いています。多壮灸は、バームを厚め（直径4mm、高さ3mm程度）に塗って小豆大の艾炷をのせて点火して多壮する灸法であり、深部に伝わるような心地よい温熱感を与えます。糸状灸は、病変部の面または線上にバームを点状に塗って糸状の艾炷をたくさん点火して一分消しする灸法であり、皮膚上に軽度の熱刺激を与えて広く活性化させます。リズムよくすえることにより、熱感も気持ちよさに変えることができます。基本的に灸痕を残さずに不快な熱さを与えないため、一般的に灸治療の禁忌とされるような部位（顔面部や皮膚の病変部など）にも用いることができます。患者様の病態に合わせて2種類の灸法を駆使することにより、様々な愁訴にアプローチすることができます。本講義では灸の魅力と可能性を皆様にお伝えできれば幸いです。

（本文 422 文字）

臨床で活かせる井穴（せいけつ）のお灸

鍼灸和友堂 一ノ瀬 宏

「抄録」目的：昭和 50 年（1975 年）9 月、刺絡法 工藤訓正（外科医）先生と出会い、井穴刺絡の効用を目の当たりにしていました。その後、浅見鉄男（開業医）先生は 1986 年に井穴刺絡学を発刊。安保徹・福田稔（外科医）先生方による治効理論が解明されて広がりしました。当時から井穴刺絡療法は、難病、慢性病等に効果抜群のように伝えられていました。併せて爪もみ療法も。それらの効果を知りつつも、私は刺さない鍼法にとりかかっていた。今から 15、6 年前、長野県諏訪湖のそばに積雪の中、出張治療にでかけ、ビジネスホテル宿泊中に、喘息様の咳が出て止まらなくなりました。その時、左側少商穴に右親指を当てましたら、肺の付近が暖かくなり、酷い咳が治ってきました。そのことがあって、井穴刺激をする方法があることを自覚し、井穴灸に繋がりました。

症例：60 代女性、職業鍼灸師。ここ 2 ヶ月ばかりお腹が調子悪くすっきりしていない。

現症：今朝お腹まわりが心もとなく、冷えっぽく、腹巻きをしたい様な気持ちであった。右脚が浮腫んでいるようで、所在がぼやけて、遠くにあるような感じでしっかりしていない。左脚の方は足に繋がっている感覚がある。

方法：右隠白穴（脾経井穴）に半米粒大の知熱灸 5 壮。

結果：なんとなく身体、下腹部があったかくなり、お腹がしっかりしてきたような感じで、お腹の不調が気にならなくなった。脚の重さがより軽くなった。全身的にまわりが明るくなった気分になる。声の音質が高低音部にまんべんに響き伝わることを示された。

結論：隠白穴の知熱灸によって、暖かさが身体全体に広がって胃の不快症状が緩解することを得た。井穴刺絡だけでなく、知熱灸という選択肢があることが示された。

（本文 718 文字）

知熱灸：患者が熱感を訴えると同時に取り去り、灸痕が残らないお灸。

